

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	SMILE MATE KURA			
○保護者評価実施期間	令和8年 4月 15日		～	令和8年 4月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数)	11
○従業者評価実施期間	令和8年 4月 15日		～	令和8年 4月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 4月 26日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりに合わせた個別支援	困りごとを見つけて、できないことを減らし、できることを増やしていく。	家事支援、SST、運動、外出などの取り組みをしています。
2	職員間の連携とチーム支援	朝礼、職員会議、ケース会議を通して、情報共有や活動や支援の方向性を行っている。	研修や担当者会議で得た情報を現場と共有し、支援の形を統一などを行っている。
3	家庭・関係機関との連携	保護者や相談支援専門員、学校等と定期的に情報交換を行い、連携した支援を行っている。	関係機関との合同ケース会議や地域交流の機会を増やし、切れ目のない支援体制を強化する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員による支援の質にばらつきがあること	経験年数や専門知識に差があり、支援方法の理解度に個人差があるため。	定期的な研修や事例検討会を実施し、支援の標準化と職員育成を進める。
2	建物が狭いため、施設内での運動支援が限られる。	狭い空間で子どもたちが激しい運動（走る、跳ぶなど）をすると、壁や家具、または子ども同士が衝突する危険性が高まります。	運動を行う時間は、机やおもちゃを完全に片付ける、またはキャスター付き什器で壁際に寄せるなどして、一時的に床面積を最大化します。
3	利用者の将来を見据えた自立支援の充実が十分でない	日常支援が中心となり、長期的な視点での目標設定や評価が十分でない場合があるため。	ライフステージを見据えた目標設定や関係機関との連携を強化し、自立に向けた支援を充実させる。